



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 366

Januar 2022

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

新年ご挨拶

NPO法人神戸日独協会会長 栢田 義一

2022年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。新しい年が協会や会員の皆様にとって素晴らしい年になりますように心より祈念しております。

昨年も新型コロナウイルスで明け暮れた一年でしたが、10月以降には全国的にコロナ感染の減少状態が続き、諸規制も解除・緩和されるようになり、社会活動も復活の兆しを見せました。協会でも会報10月号にて「神戸日独協会の活動再開」をお知らせし、活動再開後の最初の事業として11月下旬に「日独修好160周年記念講演会」を開催しました。会場参加人数の制限など感染予防に十分配慮した上での開催でしたが、会員の皆様とほぼ2年ぶりにお会いすることのできた講演会でした。またこの講演会は会場非参加会員の皆様をはじめ会員外の方々へオンラインを通じて発信し、ことにドイツへも同時通訳とパワーポイントのドイツ語訳を付して発信することが出来ました。スタッフの献身的なご尽力により本協会のドイツとの活動の新たな可能性を開くことが出来ました。これらの経験を生かして、mit Corona、nach Coronaでの協会活動に新たな企画を提供したいと思えます。

この2年間新型コロナウイルス感染に目を奪われ生活が様々な制限を受けている間に、世界情勢は大きく変わりました。我々にとって最も身近な日独関係にも変化が見られます。Eberts ドイツ総領事の160周年記念講演「ドイツ政府インド太平洋ガイドラインでの大切なパートナーとしてのドイツと日本」にてご指摘をいただいたこのガイドラインに基づいた外交・安全保障・環境・経済など様々な分野でのドイツとインド太平洋地域での協力推進、昨年末に発足した新しい枠組みによるドイツ新政権、そして日本の政権交代等により日独交流の新時代が期待されます。

昨年末よりのオミクロン株による新たな急激な感染拡大が欧米に見られ、日本でも新年以降全国的な拡大が報じられています。しかしこれまでの数次にわたる感染拡大での経験、ワクチン接種の普及などにより社会的影響が少ならんことを願ってやみません。

このような時こそ協会員が力を合わせて、コロナ禍に負けずに日独交流に尽くしましょう。

NeujahrsgriÙe

Yoshikazu Masuda

Präsident der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe

Zum Jahresbeginn möchte ich Ihnen allen hiermit meine herzlichsten Glückwünsche übermitteln, in der Hoffnung, dass 2022 für die Gesellschaft und alle Mitglieder ein gutes und erfolgreiches Jahr wird.

Im Oktober letzten Jahres sind die COVID-19 Infektionszahlen in Japan zurückgegangen, Beschränkungen wurden aufgehoben oder gelockert, soziale Kontakte und Aktivitäten wurden wiederbelebt. Auch wir konnten in unserer Vereinsaussendung vom Oktober einen Wiederbeginn unserer Kurse und Veranstaltungen ankündigen. An erster Stelle stand eine Vortragsveranstaltung zum Jubiläum "160 Jahre freundschaftlicher Austausch zwischen Japan und Deutschland". Die Veranstaltung fand unter den Vorzeichen der Maßnahmen gegen eine weitere Ausbreitung der Pandemie und somit auch mit beschränkter Teilnehmerzahl statt, und doch war es eine große Freude, dass nach zwei langen Jahren wieder eine Zusammenkunft von Vereinsmitgliedern möglich wurde.

Die Vorträge wurden online übertragen, um sie auch Mitgliedern und Nicht-Mitgliedern, denen eine Teilnahme nicht möglich war, zugänglich zu machen. Online wurde auch eine Simultanübersetzung ins Deutsche, sowie eine deutsche Übersetzung der PowerPoint-Präsentationen angeboten. Dank des Engagements und der harten Arbeit aller Mitwirkenden, konnte unsere Veranstaltung somit auch interessierten Personen in Deutschland zugänglich gemacht werden, und wir konnten wertvolle Erfahrungen sammeln, auf denen wir bei weiteren Veranstaltungen in Zeiten mit Corona wie auch nach Corona aufbauen können.

In den letzten beiden Jahren hat uns die Pandemie viel von unserem Leben genommen, vieles war nur eingeschränkt möglich. Es kam auf globaler Ebene zu drastischen Veränderungen, auch unser besonderes Interesse, die Beziehungen zwischen Japan und Deutschland, waren davon betroffen. Herr Generalkonsul Eberts sprach in seinem Vortrag zum Jubiläum "160 Jahre freundschaftliche Beziehungen" von den Indo-Pazifik-Leitlinien der Bundesregierung. Deutschland und Japan erscheinen darin als wertvolle Partner zu Fortschritten auf den Ebenen der Diplomatie, bei sicherheitspolitischen und wirtschaftlichen Fragen, sowie Fragen der Umweltpolitik. Die Regierungswechsel in Deutschland wie in Japan stellen dafür neue Rahmenbedingungen, die auch auf eine neue Ära der Zusammenarbeit zwischen den Ländern hoffen lassen.

Seit Jahresende zeigt sich eine besorgniserregende Zunahme von Infektionen der

Omikron-Variante, seit dem Jahreswechsel auch in Japan. Und doch bleibt die Hoffnung, dass die sozialen Auswirkungen durch die Erfahrungen früherer Ausbrüche sowie die fortschreitende Verbreitung von Schutzimpfungen minimiert werden können. In Zeiten wie diesen gilt es auch für uns alle in der Gesellschaft, miteinander die Erkrankung in Schach zu halten, und uns für den weiteren Austausch zwischen Japan und Deutschland einzusetzen.

神戸日独協会ドイツ文化特別講座

「ドイツ語と音楽・ドイツリートとオペラの旋律」

会報前号にてお知らせしましたが、新春に「ドイツ文化特別講座」を開催します。ドイツ語文を音楽との関連で捉えるというユニークな講座です。音楽関係者、音楽、特にドイツ歌曲等に興味のある方には恰好な講座です。オンラインZOOM授業で行いますので、時間の都合や感染予防などで教室へ通えない方にもお勧めの講座です。公開講座ですので、非会員の方も是非ともご参加ください。

講座内容

19世紀、ドイツ語の歌詞を用いる歌曲やオペラは、クラシック音楽の中で独自のジャンルを確立しました。これらの「ドイツリート」や「ドイツオペラ」は旋律と言語が密接に結びついています。2021年春に開講した神戸日独協会第一回ドイツ語特別講座(オンライン授業)において、私はドイツ語の「基礎文体」についてお話ししました。実は、これらの「文体」は18世紀から19世紀初頭の音楽教科書の中でも取り上げられており、それぞれの「文体」の特色を旋律によって適切に表現することは、作曲家に求められる能力の一つでもありました。

今回の講座では、第一回目のレッスンで言語と音楽のそれぞれの聴き方、言語の文法と音楽旋律の「文法」などをテーマにお話しいたします。また、その後の三回の講座では、歌曲の具体例を取り上げながら、時代や作曲家を超える共通点とそれぞれの特徴を追跡します。

開講日と講義題目:

第1回1月22日: 言語の「旋律」対音楽の「旋律」・歌曲の「文法」とは?

第2回1月29日: ウィーン古典派の旋律、モーツァルト、そしてベートーヴェンとシューベルト

第3回2月 5日: R.シューマンとR.ワーグナー

第4回2月12日: G.マーラーとR.シュトラウス

担当講師: 神戸日独協会常務理事 Dr. Stefan Trummer-Fukada 氏(元神戸大学教授)

オーストリア生まれ、ウィーン大学で音楽学、演劇学、日本学を、さらにウィーン・F.シューベルト音楽学院で作曲を学ぶ。在学中にオーストリア政府奨学生として日本留学、長年日本の大学で教鞭をとる。博士論文をはじめ、ドイツ語圏の作曲学史について数々の論文を発表。第14回吹田音楽コンクール作曲部門第1位、2004年アイアランド・アークロウ音楽祭優秀賞。

開講日時: 2022年1~2月の土曜日午前10:30~12:00

授業形式 : ZOOMによるオンライン授業。協会会議室での聴講も可。

定員 : 各講義20名

受講料 : 1回会員1000円(非会員1500円)

申込 : 神戸日独協会事務局へ電話(078-230-8150)またはメール(info@jdg-kobe.org)にて、1月19日までに申し込み下さい。申込締め切り後も各講義に余裕がある場合には受け付けますが、それぞれ2日前の木曜日まで事務局へお問い合わせください。申込後、入金を確認し次第、アクセスのリンクをお送りします。

ドイツ文化特別講演会(ZOOM講演会)のご案内

今回のドイツ文化特別講演会は神戸日独協会の杉谷眞佐子・林良子両理事の提案で開催されます。林理事は、「日本でのドイツ語教育」「ドイツでの日本語教育」関係者の学会「JaF-DaFフォーラム」を主宰されており当学会との共催が可能となりました。講演会はドイツから参加の講師の都合やドイツ側参加者の多いことから、例外的に金曜日夜に開催されます。ご了解いただければ幸いです。なお、島田先生の基調講演に引き続き、ドイツ・日本における語学教育の実践報告および情報交換会も開かれます(21:30終了予定)。

日時 : 2022年2月18日(金)19:00~20:00(ドイツ時間11:00~12:00)

テーマ : 「ドイツで『日本』を教えるということ」

デュッセルドルフ大学現代日本学科には学士コースから博士コースまで現在約700人以上の学生が在籍しており、ドイツ内で最も規模の大きい日本学系の学科となっている。1985年に設立された学科としては大きな発展だったと言えるであろう。学生の持つ興味は多岐にわたり、特に日本のポップカルチャーと共に育ち、それに憧れて入学してくる学生も多く存在する。加えて長期日本滞在の経験を持つ学生もおり、学生の多様性が当学科の一つの強みでもある。今回の講演ではこうした学科における問題、指導の方向性やさらに日本学の持つ根本的な学問的問題などのテーマを多くの例を交えて議論する予定です。

担当講師 : デュッセルドルフ大学 現代日本学科教授 島田信吾氏

略歴:1957年大阪府生まれ。1972年渡独。1979年アビトゥア取得。ミュンスター大学にてドイツ言語学専攻、1988年 Magister Artium 取得。エアランゲン・ニュールンベルク大学社会学博士課程において1992年博士号取得。1997年 Habilitation(教授資格)取得。2002~2005年ハレ・ヴィッテンベルク大学比較文化社会学教授を経て2005年より現職。

申込 : 2月12日までに事務局までメール(info@jdg-kobe.org)でお申し込みください。ミーティングID、パスワードなどについてメールにてご連絡いたします。

「ドイツ語講座」「ドイツ文化教室」2021年度第Ⅳ期開講

1月11日(火)からドイツ語講座・ドイツ文化教室の2021年度第Ⅳ期が開講します。

新年以降オミクロン株によるとみられる感染が近畿圏でも急速に拡大しています。協会では従来のように対面授業を行います。感染状況に応じて、クラスの事情に応じてオンライン(ZOOM)授業へ移行することもありますので、予めご了承ください。

開講授業の詳細については、協会事務局へお問い合わせ下さい。

ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。

寒冷に加え感染が懸念される今年の冬は、駅からも近い教室でドイツ語講座・ドイツ文化教室に参加しませんか。ご参加をお待ちしています。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第2月曜まで事務局へ)

イエナ便り イエナ大学大学院での講義科目

会員 竹中らら(イエナ在住)

イエナ大学に入学して、早三か月になりました。今回は、大学院での勉強について書きます。イエナ大学の「Auslandgermanistik - Deutsch als Fremdsprache, Deutsch als Zweitsprache」では、外国語としてのドイツ語(DaF)、第二言語としてのドイツ語(DaZ)の教授法を学び、国内外でドイツ語及びドイツ文化を教える資格を得ることができます。

まず必修科目として、言語学の理論、試験の作成と実施、メディア教育、ランデスクンデ(地誌情報)、職業志向のドイツ語授業の基礎といった授業を受講します。例えば、「Geschichte im DaF-Unterricht(ドイツ語授業における歴史)」という授業では、写真・テキスト・映像・美術館といった多様なアプローチを使用し、ドイツ語圏の歴史を授業で効果的に取り扱う方法を学んでいます。また「Migrationsliteratur(移民文学)」の授業では、多和田葉子を始めとする移民文学に取り組んでいます。これらの文学をどのようにドイツ語の授業で応用できるかという視点で、レッスンの計画を作成しています。

また選択科目として、第二言語としてのドイツ語習得の研究や関連するトピックについての最近の実践研究や教育現場の課題について学ぶこともできます。三学期目には、教育実習の機会も用意されています。DaF領域では母国の外国大学生向けにオンライン授業を行ったり、DaZ領域ではイエナにある移民の子どものための外国語補修コースで実習を行うことができます。

このようにイエナの大学院では、理論と実践の融合に重きが置かれており、授業で身につけた知識を対象の研究や実践的な分野に応用することができます。

また大学院の研究所には、「教材研究と開発」と「第二言語としてのドイツ語」という二つの研究領域があります。前者は、DaF分野における教科書関連の研究と教材開発を扱っています。後者は、「ドイツ語ができない新規移民の子どもや若者」や「第二言語としてのドイツ語教育」などをテーマに研究を行っています。これらに二つの領域に関する研究会も定期的に開催されています。

私が大学院で取り組みたい研究テーマは、「中上級学習者向けの単語帳の特徴—日独教材の比較—」です。日本とドイツで出版された単語帳の特徴を整理し、特に語彙選択の基準に焦点を当て、それぞれの類似点と相違点を明らかにします。それによって、日本人ドイツ語の語彙習得がより容易になるような提案をすることを目的としています。

イエナ大学には、私の研究のテーマを遂行するための環境が整っています。大学院での授業で多くのことを学び、講演会やワークショップに積極的に参加し、研究者や先生方との接点を保ち、最新の情報を交換し、自分の研究を深めていきたいです。またこの大学院は、留学生の割合が9割近く、様々な国や文化からの仲間の学生との刺激的な学習をすることができます。このような環境で二年間、勉学と研究に専念していきます。

ドイツ語談話室

第206回ドイツ語談話室

日時：2021年12月18日(土) 14～16時

場所：神戸日独協会 会議室

テーマ：新年への期待

今回の司会は川見正之氏が担当され、ドイツ人と日本人の、コロナ後にやりたい活動についての興味深いアンケート結果を説明された。ドイツ人、日本人とも、旅行、外食、友人たちとの出会い、がトップ3にあって共通しているのは面白い。一方、ドイツ人のアンケート回答にある、痩せたい、や新しい仕事に応募したい、パートナーを探したい、などは興味深い。

今回は新しい若い方の参加がお二人あったので、それぞれ自己紹介をしていただいた。

以下に、参加者の皆さんが述べられた新年への期待を一部紹介する。

- 和歌山のテーマパークにいるパンダにぜひ会ってみたい。
- コンサート、サウナ、フィットネスクラブなどに行きたい。
- 人々がコロナに対して、報道だけに一喜一憂するのではなく、自身で真剣にコロナ対応を考えるよう期待する。
- 来年の金婚式にはハワイに行ってみたい。そのために健康維持に努めたい。
- 日本各地の温泉を訪ねたい。特に秘境の温泉に行ってみたい。
- 北海道を訪ねたい。
- 断捨離を実行したい。
- 来夏には、ドイツを訪ねたい。また、国内では、東北地方に行きたい。
- 山積している古い書類を片付け、不要なものは紙のリサイクルに出したい。
- 月2回のゴルフを楽しみたい。そのためにも、健康を保つ努力をしたい。

今後のドイツ語談話室の予定

第207回 2022年1月15日(土) 14~16時 テーマ : とら年

第208回 2022年2月19日(土) 14~16時 テーマ : 地球温暖化対策

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 206. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit : Samstag 18. Dezember 2021, 14 bis 16 Uhr

Thema : Erwartungen an das neue Jahr

Dieses Mal hatte Herr Masayuki Kawami die Gesprächsleitung und sprach zuerst über Umfragen in Deutschland und Japan nach Dingen, die man gerne machen möchte, wenn man durch die Pandemie nicht daran gehindert wäre. Interessanterweise stehen in beiden Nationen „Reisen“, „Essen im Restaurant“ und „Treffen mit Freunden“ auf den ersten drei Plätzen. Im Unterschied zu Japan finden sich in Deutschland auch Antworten wie, „Abnehmen“, „Sich um einen neuen Job bewerben“ oder „Auf Partnersuche gehen“

Dieses Mal kamen eine neue Teilnehmerin und ein neuer Teilnehmer zur Gesprächsrunde.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema, was man jetzt alles gerne machen würde:

- In Wakayama im Zoo den Panda sehen.
- In Konzerte, die Sauna oder ins Fitnessstudio etc. gehen.
- Ein Wunsch ist es, dass die Leute selbst ernsthaft entsprechende Maßnahmen gegen Covid19 ergreifen, ohne sich von diversen Informationen in den Massenmedien irreleiten zu lassen.
- Nach Hawaii fliegen, um goldene Hochzeit zu feiern. Dafür gilt es auch in erster Linie, gesund zu bleiben.
- Verschiedene Badeorte in Japan besuchen, besonders solche auf dem Land.
- Hokkaido besuchen.
- Unnütze Dinge entsorgen.
- Im Sommer Deutschland und in Japan Tohoku besuchen.
- Angehäuften alte Dokumente ordnen und nicht mehr Gebrauchtetes zum Recycling geben.
- Zweimal monatlich Golf spielen und gesund bleiben.

Nächste Treffen

Sammstag, 15. Januar 2022, 14 bis 16 Uhr. Thema: Das Jahr unter dem Tierzeichen
"Tiger"

Sammstag, 19. Februar 2022, 14 bis 16 Uhr. Thema: Maßnahmen gegen die globale
Erwärmung

Stammtisch mit Zoom

2月のStammtisch mit Zoomのお知らせ

日 時 : 2022年2月19日(土)10:00~11:00

話題提供 : 藤井 剛 氏 (兵庫労働局 職業安定部長)

国家公務員である藤井 剛氏は、人事院の制度により2002年から2004年までドレスデン工科大学に留学されていたそうです。留学の経験や大学の授業の様子、ドレスデンでの生活などについてお話しいただきます。

神戸日独協会 Stammtisch mit ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/85366355191?pwd=N05kSTl1blVhYkNqc2kvQmd5VjlPQT09>

ミーティングID : 853 6635 5191

パスコード : 393924

事務室からのお知らせ

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は2月10日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL 078-230-8150)。

印刷 : 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送 : 神戸日独協会にて、12:30~